

拝啓 今年も早や1月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、山茶花の花が咲いております。毎朝散歩するコースの途中から、富士山や南アルプスの北岳が見える場所があり、この時期は北岳が見える日が週のうち半分くらいあります。

今回は、小西芳之助先生の『ガラテヤ人への手紙講解説教』からの引用の第7回目で、今回のエンカウンターの5頁「本当の教師と偽教師の区別」には、次のように書かれています。

「私が思うに、本当の教師は万人ができることを教える。万人が手の届くことを教えます。源信、源空、親鸞というような人は、「妄念の中から、心乱れたまま、念仏せよ」と言われました。これは万人に可能です。座禅もまた万人に可能です。万人誰でも出来ることを教える人は大先生です。我々が実行できないことを教える人はまだまだ修行途中の先生です。

然らば、小西は何を教えるかと言えば、イエス・キリストを救い主と信じて、目の前に落ちてくる仕事を力一杯やりなさい。これです。これは万人に可能です。しかし、終生これをやり通すことは困難です。これはやはり、永遠の生命、天国へ行くという希望がなければ続きません。私は50年間それをやってきました。諸君もやって見給え。どんな仕事でも。人が喜ぶからとか、給料が上がるからでもよい。一所懸命にきなさい。私は大先生でもなんでもありません。万人が可能なことをするよう、大先生を真似しているにすぎません。」

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

#### **小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』12月29日**

「再びデヴィッドソンの言葉

デヴィッドソンいわく、「立派な平凡な生涯は、すべての行為の中で最も偉大なことである」と。

私は、これを説明していわく、「称名しつつ、復活の希望をもって生きる平凡な生涯は、最も偉大なる行為である」と。

私は、復活の希望をもって、称名しつつ、平凡なる生涯を送ることを切に希望する。それは、その生涯がすべての人に可能だから。」

#### **新渡戸稲造先生『一日一言』1月1日**

「初めの一步は道の半ばに当たる。何事も出ようが大切。花は芽にあり、大人の心は三つ児に始まる。今年の事業は今日の心に起こる。」

#### **松下幸之助先生『続・道をひらく』「仰ぎ見給え」**

「仰ぎ見たまえ。あのすき通るような真冬の青空。どこまでもどこまでも青く染まった果

てしなき大空の深さ。思わず息をのむ。そんなとき、天の声が聞こえる。フト天の声が聞こえる。…

小さな知恵と小さなとらわれと小さな憤りの中で、われとわが心を傷つける日々ではあるけれど、お互いの天与の魂はそんな日々に耐えて、きょうもなお奥深く、静かな光をたたえている。その光が、もの思わぬ一瞬にきらめくのである。天地と一体となった忘我のとき、フトひらめき出るのである。この素直ななつかしさ。不思議なあたたかさ。

思い悩むのもよい。迷いの淵に立つのもよい。それも人間の一つの生き甲斐かも知れない。しかし時に仰ぎ見給え、あのすき通るような真冬の青空を。」

### 内村鑑三先生『統一日一生』12月29日

「そうして信仰の進歩と共に今世はますます軽くなり、来世はますます重くなるのであります。身は今なお幕のこなたに留まりますが、心はすでにかなたに移りて、その栄光を感じるのであります。そうしてかなたに厚くなればなるほど、こなたに薄くなるのであります。この栄光の国の、わがために備えられしを知りて、私どもはこの世の欲望（のぞみ）が日々に薄らいでくるのであります。そうして耳にかすかにその音楽を聴き、眼にかすかにその輝きを望みて、私どもの心は飛び立つのであります。しかり、幕1枚であります。そうしてすべての誘惑（こころみ）は終わるのであります。すべての涙はぬぐわるるのであります。イエスを面前（まのあたり）拝しまつるのであります。愛する者に再会するのであります。すべての疑問が解けるのであります。すべての誤解が氷解するのであります。そうして新しき自由の生涯に入るのであります。人は人生が短いとて嘆きますが、クリスチャンはその長からざるを感謝するのであります。栄光の国は今や目前に横たわるのであります。喜びてもなお喜ぶべきではありませんか。」

### パークレー先生「ウィリアム・パークレイの一日一章」（1月3日・1月4日）

#### 「時間（1）」

私たちが年を取り、余生が短くなった時、つぎのことを忘れないようにしよう。

ものごとを中途半端にしておかないこと——永久に未完了のままにならないように。

なすべきことを慎重に選ぶこと——あらゆることをやる時間はないのだから、ほんとうに大切なことだけをやるべきである。

人とけんかや仲たがいをしたまま一日を終わらないこと。

#### 時間（2）」

1 われわれに与えられた人生の時間は限られている。その終りが来たとき、それ以上の時間を手に入れることはできない。

2 人生の長さをだれも知ることが出来ない。

3 学ぶべきことがあれば、今学ばなければならない。先に伸ばせば伸ばすほど学ぶことが難しくなってくる。

「なすべきときはいまだ！」  
もうお時間です！」

### カウマン先生『山頂を目指して』12月31日

「私たちは、大地をしっかりと踏みしめ、星に目を注いで、勇ましく進んでいこう。なぜなら、私たちと一緒に歩まれるかたは、「見よ、私は世の終わりまで、いつもあなた方と共にいるのである」というお約束を、私たちに与えて下さっているからである。

肉薄せよ！  
岩のごつごつした急斜面を乗り越えよ、  
大胆に激流をおどり越えるのだ。  
いくじなくはっている者だけが失敗する。  
勝利を得る者は  
英雄のように勇敢に突き進む者だ。  
英雄であれ！  
途上の万年雪を力強く踏みしめ、  
黒檀のような夜の壁を貫いて、  
真昼に至る道を切り開け。」

### スポルジョン先生『朝ごとに』1月2日

「ひたすら祈り続けなさい。(コロサイ4・2)  
この年も、あなたが聖く、謙遜で、熱心かつ忍耐強くあるように祈れ。キリストとのより深い交わりに入り、更にしげく愛の饗宴に入れ。あなたが他の人々の模範となり、祝福となり、さらに主の栄光のために生き得るように祈れ。この年の標語は、ひたすら祈り続けなさい、でなければならない。」

1月12日(金)、本誌読者の佐藤昭夫さん達と、毎年この時期ののぼっている石割山(1413m)に登りました。この日は、快晴で、一日富士山がくっきりと見えていました。下山後は、いつも行く紅富士の湯に入り、のんびりとしました。1月16日、佐藤昭夫さんに我が家に来ていただき、私のパソコンに入っているキリスト教とエンカウンターデータを渡しました。佐藤さんが、小西先生の文献の英語紹介の準備を進めてくれます。

新型コロナについては、最近の電車の中とかスーパーでは、まだマスクをされている人が半分ほどおられます。マスク、手洗い、うがいなどは、必要と思われるときは実行されて、十分ご注意ください、コロナにかからないようにして下さいようお祈り申し上げます。

2024年1月22日

山口周三

エンカウターの読者各位